

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／自動運転 （システムとサービスの拡張）／自動運転に係る海外研究機関との 共同研究の推進に向けた連携体制の構築」

2021年度分 成果報告書 概要版

国立大学法人東京大学
モビリティ・イノベーション連携研究機構

2022年3月

「自動運転に係る海外研究機関との共同研究の推進に向けた連携体制の構築」 事業内容

1. SIP-adusの国際連携窓口として、海外研究機関との連携環境整備と研究テーマ形成の促進

- ① 政府レベルの国際連携における、海外研究機関との連携に向けた環境整備
- ② 専門家レベルにおける、海外研究機関と連携する研究テーマ形成の促進
- ③ 自動運転関連研究のデータベースの拡充

2. 自動運転分野における国際連携の研究を促進する組織の設立計画の立案並びに調整

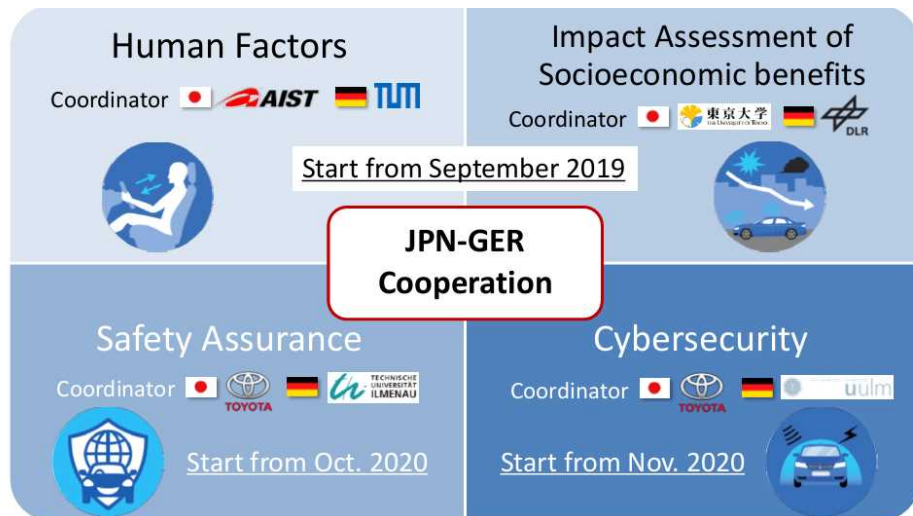
- ① 持続的な連携モデル（組織形態、構成員等）の検討
- ② 組織設立計画の立案（2021年度下期に準備委員会の設定）ならびに調整

1. SIP-adusの国際連携窓口として、海外研究機関との連携環境整備と研究テーマ形成の促進

① 政府レベルの国際連携における、海外研究機関との連携に向けた環境整備

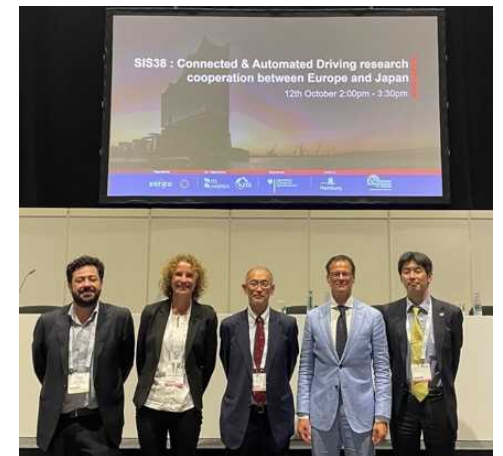
日独連携活動の推進

- 政府間会議の開催運営
 - 第4回ステアリング委員会（2021年6月25日開催）
 - 第5回ステアリング委員会（2022年3月15日開催）
 - 事務局間会合（4/26, 5/17, 6/14, 8/24, 9/21, 10/26, 11/25, 2/18, 3/23）
- 連携活動を行っている4項目（下図）の進捗状況確認を行うとともに、SIP第2期自動運転終了後の日独連携活動継続に向けた議論を開始。



日EU連携活動の推進

- 政府間会議の開催運営
 - Bi-lateral Meeting（2021年7月1日開催）
 - 事務局間会合（9/7, 10/28, 1/31）
- ITS世界会議（2021年10月@独ハンブルグ）にて、欧州委員会とのジョイントセッションを企画・実施。
- 2020年度に引き続き、日EU間連携進捗状況の高級事務レベルへの報告書としてAnnual Status Reportを作成。



① 政府レベルの国際連携における、海外研究機関との連携に向けた環境整備

SIP国際連携窓口としての対応



■ SIP-adusワークショップ2021のKeynote speech登壇者に係る調整

SIP-adusワークショップ2021のオープニングセッションにおける米国運輸省高官及びEU政府高官のKeynote speechの登壇依頼を行い、以下の高官にご登壇いただいた。

米国： Kenneth M. Leonard氏 (Director, ITS Joint Program Office, United States Department of Transportation, United States of America)

EU： Rosalinde van der Vlies氏 (Director, Clean Planet, Directorate-General for Research and Innovation, European Commission)

■ 国際会議等でのSIP-adus取組みの対外発信

SIP-adus国際連携コーディネータとして下記の会議・Webinarに登壇し、SIP-adusの取組み紹介を行うとともに、ネットワーク作りを実施。

- 2021年9月9日： ITS World Congress Webinar “Innovation and Deployment of CCAM”
- 2021年10月11日： ITS World Congress 2021 “Building the Ecosystem”
- 2022年1月9日： TRB Annual Meeting 2022 “Highlights from the 2021 TRB ARTS”



② 専門家レベルにおける、海外研究機関と連携する研究テーマ形成の促進

「モビリティ・イノベーション連絡会議」の開催

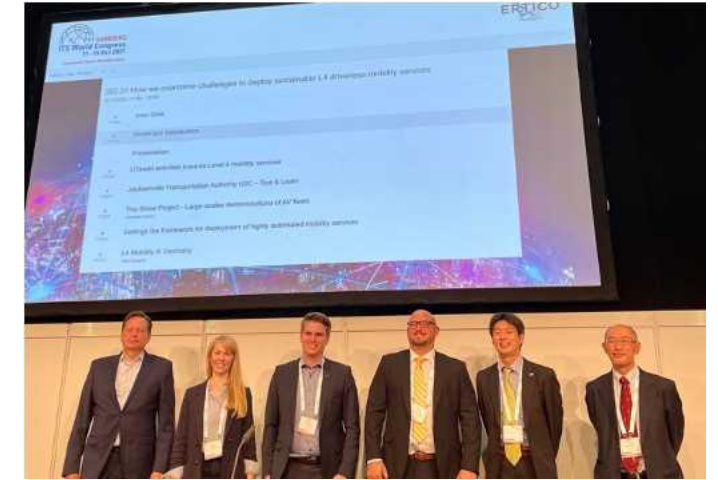
- 広範な分野からの大学の専門家、国内研究開発法人等のメンバーからなる「モビリティ・イノベーション連絡会議」を開催（9月、12月、3月）し、国際研究状況の情報共有を行い、SIP第2期自動運転終了後を見据えた国際連携の可能性を有する研究テーマについて論議した。

開催時期	主な議題
2021年9月	<ul style="list-style-type: none">・連絡会議委員の見直し、委員からの話題提供・国際連携研究テーマ（RoAD to the L4プロジェクトテーマ4）の紹介・モビリティ・イノベーション連絡会議のホームページ開設・国際研究動向の共有
2021年12月	<ul style="list-style-type: none">・SIP第3期に関する情報共有（内閣府）・自動運転関連研究データベース更新作業の連絡・国際研究動向の共有・SIP 第2期終了後の連絡会議のあり方について
2022年3月	<ul style="list-style-type: none">・モビリティを活用したビジネスイノベーションコンテスト・国際研究動向の共有・自動運転関連研究データベース更新の進め方、データベースの利活用に関する検討・2023年度以降の活動継続に向けて

② 専門家レベルにおける、海外研究機関と連携する研究テーマ形成の促進

持続的な国際連携研究テーマの検討：Level 4 Mobility Service 実用化研究

- ITS世界会議（2021年10月@独ハンブルグ）でLevel 4モビリティサービス実用化に向けた議論を行うセッションを企画・運営
- 欧州SHOWプロジェクトとの連携活動
 - 欧州SHOWプロジェクト-ITS Japan、東京大学間でMOUを締結（2021年10月）
 - 第1回合同ワークショップの開催（2022年3月10日）

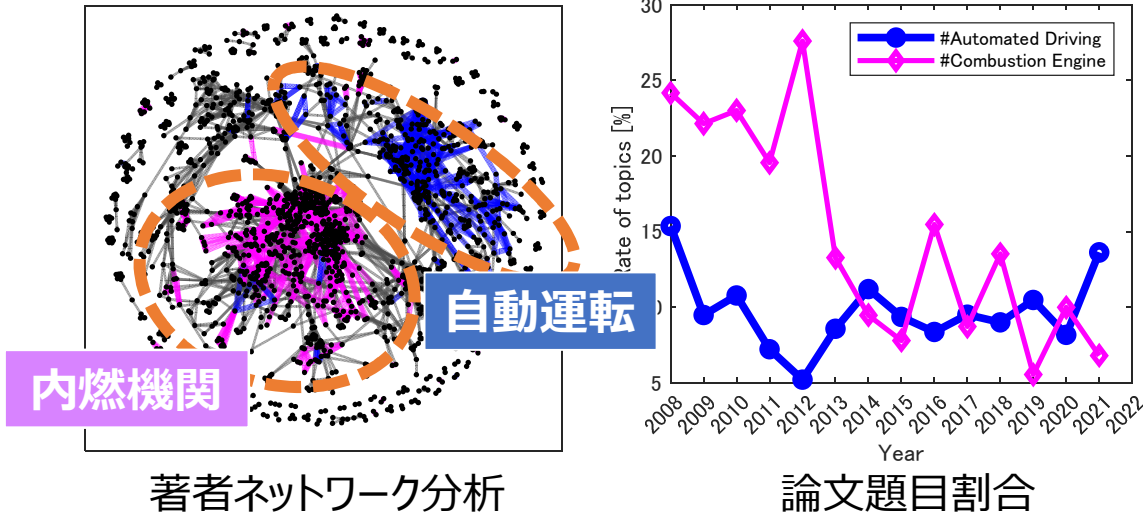


③ 自動運転関連研究のデータベースの拡充

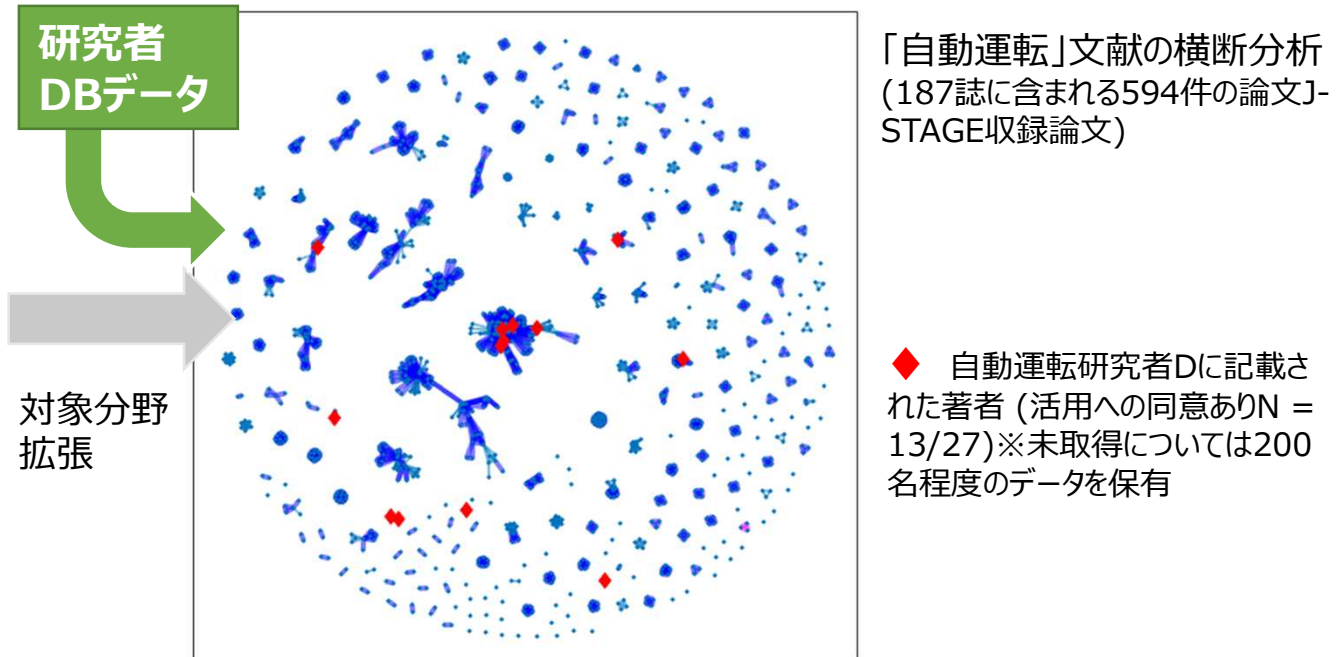
データベースの利活用に関する検討

- 多岐に渡る自動運転関連研究の方向性を探り、その方向での専門家とのネットワーク作りや取り組むべき研究項目（国際連携研究含む）の創出につなげるため、活用イメージの一つとして“共著関係分析・題目分析を通じた自動運転研究の研究”を推進。自動運転関連の研究がこれまでどのように進んできたかを分析した。
- 利活用イメージに沿って過年度に集めた200名弱分データ利用の手続きを進め、研究動向の分析と連携活動が与えた影響の分析を行う。

自技会論文集を対象として自動運転研究を分析



※2022年自動車技術会春季学術講演会で発表予定



2. 自動運転分野における国際連携の研究を促進する組織の設立 計画の立案並びに調整

① 持続的な連携モデル（組織形態、構成員等）の検討

新組織の実現に向けた実施事項と課題の整理

- 2023年度以降、SIP-adus第2期で実施してきたモビリティ・イノベーション連絡会議の役割を継承する組織を実現させるために必要な実施事項と課題を、下表のとおり整理した。

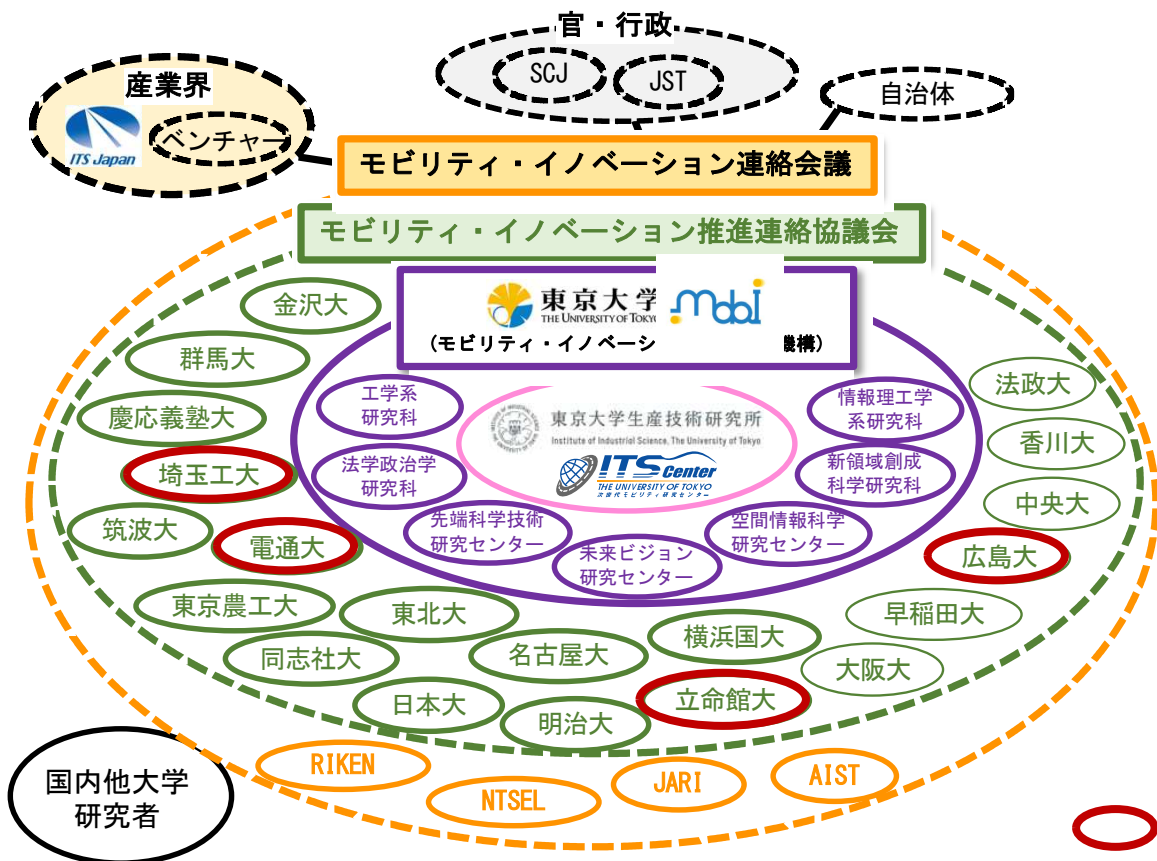
実施事項	課題
① 組織の役割、位置づけの整理	・既存組織との違いの明確化
② 組織の活動内容案の検討	・運営規模、収支見込みとのバランス
③ 組織の活動内容の試行 <ul style="list-style-type: none">・共同研究体制の構築・データベースの構築・人材育成事業の企画、試行・広報活動等の試行	・具体的な事業における調整 ・参加メリットの明確化、データ収集 ・具体的な事業の企画、実施 ・継承組織としての広報活動等の機会
④ 組織形態の検討	・持続可能な運営資源の確保
⑤ ①～④に関するMI連絡会議関係者、関係省庁との調整	・多様な意見の聴取
⑥ ④を踏まえた組織設立準備	・必要な法的手続きの確認、書類作成

① 持続的な連携モデル（組織形態、構成員等）の検討

学学連携体制の強化

- モビリティ・イノベーション連絡会議の開催
- 会議メンバーの拡充（4大学）
- 連絡会議ホームページ*の立ち上げ（21/8）、アップデートの実施（22/3）

* <https://apmi.jp/index.html>



○ 新規参加メンバー

モビリティ・イノベーション連絡会議
Alliance for Promoting Mobility Innovation

ホーム メンバー 活動紹介 ENGLISH

メンバー

モビリティ・イノベーション連絡会議構成員リスト (2022年3月1日現在)

参加組織の所在地・ウェブサイト

筑波大学 人工知能科学センター	産業技術総合研究所 ヒューマンモビリティ研究センター	日本自動車研究所 自動走行研究部
東北大学 未来科学技術共同研究センター		
群馬大学 研究・産学連携推進機構 次世代モビリティ社会実装研究センター		理化学研究所 革新知能統合研究センター
交通安全環境研究所 自動車安全研究部		明治大学 自動運転社会総合研究所
金沢大学 高度モビリティ研究所		日本大学 生産工学部自動車工 リサーチ・センター
同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター		電気通信大学 先端ワイヤレス・ コミュニケーション研究センター
同志社大学 モビリティ研究センター		東京大学 モビリティ・ イノベーション連携研究機構
		東京農工大学 スマートモビリティ研究拠点
埼玉工業大学 自動運転技術開発センター		横浜国立大学 持続可能なモビリティシステム研究拠点
立命館大学 知能化社会デザイン研究センター		慶應義塾大学 モビリティカルチャー研究センター
名古屋大学 未来社会創造機構モビリティ社会研究所		

事務局
東京大学 モビリティ・イノベーション連携研究機構 (UTmobility)
〒277-8574 千葉県柏市柏の葉5丁目1-5
utmobi-sec@its.iis.u-tokyo.ac.jp

本活動はNEDOの調査業務「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期自動運転 (システムとサービスの拡張)」のうち、自動運転に係る海外研究機関との共同研究の推進に向けた連携体制の構築より一部支援を受けています

Copyright © モビリティ・イノベーション連絡会議. All Rights Reserved.

ホームページ、メンバーサイト(日本語版)

① 持続的な連携モデル（組織形態、構成員等）の検討

学学連携を中心とした共同研究体制の検討

- ITS Japanと連携し実施してきたLevel 4 Mobility Service実用化研究について、関連する大学、研究所等と連携し、経済産業省・国土交通省の自動走行ビジネス検討会傘下のプロジェクトに応募し、採択、コンソーシアム体制での研究活動を開始した。

RoAD to the L4 テーマ4（CooL4） 主な取組みメンバー

<大学>

東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構

- ・ 生産技術研究所
- ・ 新領域創成科学研究科
- ・ 情報理工学系研究科
- ・ 未来ビジョン研究センター

名古屋大学未来社会創造機構

- ・ モビリティ社会研究所
- ・ COI法制度整備ユニット

電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター

同志社大学モビリティ研究センター

<研究所>

産業技術総合研究所 情報・人間工学領域

日本自動車研究所

<産業界>

ITS Japan
三菱総合研究所
三井不動産
Panasonic
清水建設
BOLDLY

<地域>

柏市
UDCK
(柏の葉アーバンデザインセンター)

※青字：モビリティ・イノベーション連絡会議メンバー

②組織設立計画の立案（2021年度下期に準備委員会の設定）ならびに調整

新組織の組織概要の検討

- SIP-adusの下で構築したモビリティ・イノベーション連絡会議の枠組みを承継し、学学連携を中心とした法人格を持つ一般社団法人の設立を検討。

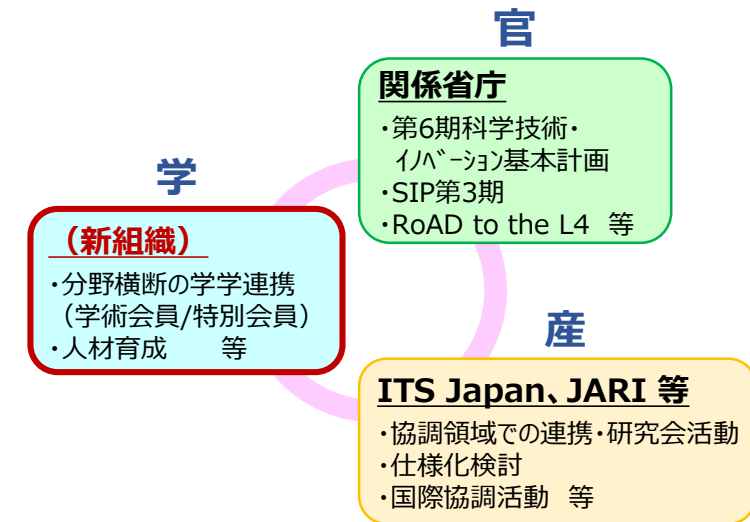
新組織の設立時期（予定）：2022年度第1四半期

新組織の役割：

学学連携の枠組みを引継ぎ、日本におけるモビリティ・イノベーションに関する取り組みを連携・促進し、社会経済および学術研究の発展に貢献する。

新組織の事業（案）

- ① 新たなモビリティ社会に向けた政策、施策への提言
- ② 新たなモビリティ社会に向けた分野横断的な研究開発・社会実装の連携促進
- ③ 新たなモビリティに関する学術ネットワーク構築と産学連携支援
- ④ 新たなモビリティに関する海外研究機関・プロジェクトとの連携促進
- ⑤ 新たなモビリティに関する連携セミナーの開催
- ⑥ 新たなモビリティに関する人材育成、情報発信
- ⑦ その他この法人の目的を達成するために必要な事業



②組織設立計画の立案（2021年度下期に準備委員会の設定）ならびに調整

組織設立に向けた関係省庁等との意見交換

- 2020年度に引き続き、組織の位置づけ、活動内容、体制に関する案を作成し、関係省庁等との意見交換を実施。以下のような意見、見解を得た。
 - 科学技術・イノベーション基本法、第6期科学技術・イノベーション基本計画の大切なところとして、人文学と科学の連携がある。これは強みになるので、この動きで先行例になればよい。
 - SIP第2期の活動の更なる発展として、SIP第3期につながる形で検討していければ良い、SIPとして活動が難しければ、RoAD to the L4プロジェクトとして活動しても良いのではないか。
 - 新組織の役割、意義については同意する。
 - 具体的な体制をどうするか、資金確保をどうするかが課題。新組織に産業界から運営資金を出してもらえるようなニーズを明確にできるかがポイントではないか。

等

以上

本報告書は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が管理法人を務め、内閣府が実施した「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／自動運転（システムとサービスの拡張）」(NEDO管理番号：JPNP18012)の成果をまとめたものです。